

港北区災害ボランティア連絡会ニュース

事務局 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸 13-1 吉田ビル 206 港北区社会福祉協議会

TEL 045-547-2324 FAX045-531-9561

HP <http://kohoku-saibora.jimdo.com>

FB 港北区災害ボランティア連絡会

78号

2019年7月



* 入会は随時受け付けています。あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください

地域防災拠点訓練の作り方 —前例踏襲にしないために—

今年の港北小学校地域防災拠点訓練は、残念ながら雨のために中止となりました。大雨警報が出るかもとの予報があったための決断でした。訓練なら仕方が無いものの、本番なら雨でも避難して来るだろうとは役員の方からも出た言葉です。中止後の話し合いでは拠点訓練の持ちかたについて多くの方から突っ込んだ意見が出た有意義な会となりました。

☆こんな意見が出ました

- ・拠点運営委員会のメンバーや訓練の役割は固定制が良いか、交代制が良いか
 - ・固定制だと他の仕事を覚える事ができない。
 - ・交代制だと多くの事を経験できて良いが、できるようになったとの自信が持てない。
 - ・訓練をやりさえすれば良いとの考えが前例踏襲主義になるのではないだろうか。
 - ・そもそもどんな訓練をすれば良いのか分からない。
 - ・開設の手順も良くわからない。
 - ・開催目的が不明確な訓練で良いのか。
 - ・受付名簿の管理を訓練でもパソコンで行っている。(他の拠点の方)
- などなど。知識や経験にばらつきが有るなど町内会の活動は難しい部分が見えてきました。

☆まとめると

- ・訓練では運営委員会側の目的、参加する住民の側の目的をはっきり立てると良い。
- ・市が作った開設手順のビデオを参考にしよう。
- ・拠点の運営や管理などは実際の場合は積極的に住民にも呼びかける。(過去の訓練で経験した方もいる筈だし、難しい仕事ではない)
- ・在宅避難者への支援が始まるまでには時間がかかる可能性が高い。町会とボラの協働が必要。

と具体的に考えるヒントが出ました。被災したらどうなるか、避難所に来たらどうなるか、どんな点が困るか、どう乗り越えられるかなどを具体的に知る事が大切だと感じました。災害対応にはこれが正解といった物は有りません。過去の災害で得た教訓をもとに柔軟な発想で解決に当たる事が求められます。

工夫した手製のガス台（神戸）



連絡会も今まで得た知見を拠点訓練に生かしてもらえよう、資料作りをしていきます。また発災時には拠点をどのように支援して行くのかを具体的に例示し（例えば拠点が自由に使えるボランティアを数十人単位で派遣するなど）より一層拠点とのつながりを深めて行きます。

(宇田川)

被災地訪問を続ける サッカークラブ

大豆戸 FC の活動

大豆戸フットボールクラブは 2012 年から、卒業する 6 年生を対象に被災地訪問として石巻、女川地区を訪問しています。小学生がわざわざ被災地に行くのは何故か、彼らは何を感じてきたのでしょうか。その活動はタウンニュースでも取り上げられていました。その想いを聞きました。

これからを生きる子どもたちが主役

被災地への訪問について当初は賛否両論ありました。しかし日本の歴史をみても類まれな災害があった中で、それを知らずに平然と生きていくことが果たして正しいことなのか？ということがまず頭に浮かびました。我々大人ができることの一つとして、現場に選手たちと一緒にいき、そこで実際に被害の様子を見て、聞いて、その土地の空気を感じることがこの年代の子どもたちにとって重要なことだと考えました。自分自身の中で感じたものが人を突き動かす、その原体験にしてほしいという想いもあります。

我々のクラブが大切にしているものとして、子どもたちが主役、というものがあります。遠征に関しても、やらされるのではなく、自分たちで関心を持ち、自分たちで調べる。自分たちで現地まで行くことを実践しています。事前の MTG から、現地までは新幹線と鈍行電車で向かいます。

現地では、行くたびに現地が変わっていくように、訪問の内容も変わっていきます。

女川で出会った田村さんご夫妻は息子さんを震災で亡くし、語りべ活動を行っています。お二人の心の底から発するメッセージに子どもたちの心が動かないわけがありません。

「命の大切さ」「自分の命は自分で守る」ことは、現地で実際に被害に合われた人から聞く生の言葉こそが子どもたちにも響きます。

3 年前からは、旧大川小学校にも訪れるようになりました。

同年代の子どもたちが被害に多くあっている現地で、事前に調べた情報との違いや、大人の指示に従うことが果たして正解なのか？という答えのない問答を体験することが、彼らがこれから生きていく上で非常に重要な機会だと考えています。



語り部活動をする田村さんご夫妻と 女川町

サッカーより大事なものがある

サッカークラブが現地に行くとき珍しがられ、取材を受けることが多いですが、そもそもそれがおかしいのであって、これから日本を担う人材を抱えている育成の組織ほど現地に行き、生の経験を通して、これから生きていくうえでのベース作りの根幹を醸成することが必要だと考えています。



旧大川小学校にて

自分の想いに素直に従うこと、興味をもつ、やりたいと思うから始める。我々がピッチの中でも大切にしていることは、結果的に生きていく上でのピッチ外でも繋がっていくことと確信しています。

自分で見て、聞いて、感じることを大切にしてほしいのです。サッカーより大切なものが世の中にはたくさんあることを伝えていくのが我々大人の使命と考えています。

(大豆戸フットボールクラブ代表 末本亮太)

簡単にできる災害疑似体験

★破損ガラス編★

ガラスなどが割れた上を歩くとこんなふうになるよ、といった痛い体験がペットボトルの蓋でできます。蓋を多数並べその上を歩くと一歩踏み込んだだけで痛くて歩けません。実際の場合はその瞬間に足の裏をざっくりと切り、その後の行動が大幅に制限されてしまうこととなります。卵パックの使用例もありますが、ガラスを踏んだジャリッとした感じは似ているものの、痛みはほとんどないためお勧めできません。こんな簡単な体験から、ガラス破損の怖さを体験し、飛散防止フィルムを張る動きにつながるとういいますね。訓練でも是非取り入れて下さい。

(宇田川)

災害対策に必要な掛け算、割り算

拠点訓練で参加する地域の方に出そうとした問題です。

避難所として最初に頭に浮かぶのが体育館です。では次のような条件の時に何人入れるでしょうか。そしてどんな問題が生まれるでしょうか。体育館の広さは700㎡とします。(小学校の体育館は700から800㎡程度が多いようです)

問題 1 みんな体育座りをしています。1人あたりの専有面積は50cm×50cmとします。



これだけで200名近く入っている

問題 2 疲れてきたので横になろうとしました。一人当たり50cm×2mの広さが必要です。

問題 3 段ボールベッドが支給されました。ベッドは80cm×1.8m、通路が必要になります。通路は1.5m幅で縦30mで2列、横20mで4列取るとします。

***答えは編集後記の前**

役に立った災ボウ担当



平成28年から29年まで事務局で担当をしておりました、職員の藤原です。

こここのところ北は北海道から南は九州まで、全国で地震や洪水等災害に関するニュースを聞かない年はない、といっても大げさではないほどになってきました。

とはいえ、災害時の備えの意識が広く浸透しているかというと、まだまだ十分ではないように思います。かくいう私も偉そうなことは言えず、恥ずかしながら連絡会を担当するまでは自宅には備蓄を全くありませんでした。

会の活動で学んだことの中で非常におすすめできると思うのが、ローリングストックという考え方です。これは備蓄品を日頃から使用し、買い足すことで鮮度を保ちつついざという時に備えるというものです。私は水や保存が効くレトルト食品等を一定量定期的に購入しており、美味しくいただきつつ備えとしています。特に水については、東日本大震災

で被災した友人から 500ml のペットボトルを強く勧められたことから、常に常備するようになっています。

また、水害の被災地であった常総市と交流を行い、現地の方からお話を伺うという研修旅行にも参加させていただきました。実際に被災するということがどういうことなのか、また被災地を支援するために何が大切であるかを考える非常に貴重な機会となりました。

この連絡会は、テレビや本では実感できないことを学べる貴重な場です。災害というとネガティブなイメージがあるかもしれませんが、それを学ぶことは非常に前向きなことです。これを読んでいただき、少しでも関心を持っていただいた方には、ぜひ会の活動に参加いただけたらと思います。

(区社協 藤原洋輔)

シリーズ【災害と損害保険】第1回

「保険の請求、代行します」は、詐欺です

台風で風災の被害が出ると、よく話題になる事があります。

「先日の台風で屋根の一部が痛んでいますよ。保険会社に請求すると全額保証されます。見積りから請求まで、全て代行しますからお任せください。」

そう言ってみ知らぬ業者が来るそうです。信用して任せてしまうと

- ・修理不要なところまで修理し
 - ・しかも高額な請求をし
 - ・損害保険金、費用保険金はすべて業者が受け取り
 - ・なお不足分を請求される
- という事が発生します。

火災保険では修理の直接費用だけでなく、費用保険と言われる各種費用が支払われる場合がありますが、業者はこの費用保険も持って行ってしまいます。それだけではなく、損

害保険会社が認めなかった修理費用もしつかり請求してきます。

損害保険の請求は、保険会社や代理店に相談すれば、親切に対応してくれます。「代行業者」は存在しません。契約している保険会社や代理店以外の者が「請求代行」を行ってきたときは「詐欺」だと思ってください。

修理についても、本当に修理が必要なときは保険会社に「査定」を依頼すると「適正」かどうか判断して貰えます。修理業者と契約する前に、保険会社に業者の見積りを提示し「査定」してもらおう事をお勧めします。保険会社の承認なしに修理をすると、修理費用の一部または全部が支払われないことがありますので、ご注意ください。(中島一郎)

【 答 】

体育館の収容人数

問題1 2800名(人いきれがすごい。夏や雨天で窓を開けられなかったら耐えられない)

問題2 700名(男女混合で、すぐ隣に知らない人が寝る可能性も。)

問題3 352名(住み心地は良くなるが、入れない人多数)

編集後記

☆防災ゲームや模擬体験を取り入れれば訓練をより有意義に、かつ楽しく作ることができます。(宇田川)

☆ペットボトルのキャップをつかった「ガラスの破片体験」試したいです。身近な物で出来る「体験」は大切です。

(中島一郎)

☆大勢で体育館に避難する訓練はした事ありません。やってみたいです。

(室伏)

☆拠点訓練の様子がよく見えてきましたか。是非皆さん参加してください。

(付岡)